

毎年受けよう！特定健康診査

〜茂原市の現状について〜

市では、生活習慣病の予防や早期発見のため、平成20年から国民健康保険加入者の40〜75歳未満の方を対象に、特定健康診査を実施しています。

受診率が低い

特定健康診査

茂原市の過去5年間の受診率は、県平均よりも低く、30%台で推移しています。特に、働き盛りの40代前半の方の受診率は、男性は18・1%、女性は28%と低い状況です。

「自覚症状がないから大丈夫？」

「忙しくて時間がない」「から放っておく？」

特定健康診査とは、生活習慣病と深く関わるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）を早い段階で発見し、病気を予防することに重点を置いて健診です。

メタボリックシンドロームは、糖尿病や脂質異常症、高血圧などの疾患に深く関わるものがわかっていきます。やっ

かいなことにこれらの疾患は、初期には自覚症状がほとんどみられないのが特徴です。

つまり、自覚症状が現れたときは、疾患がかなり進行してしまっていることが多くあり、対処が遅れば、それだけ日常生活に影響がでることもあります。

特定健康診査を受け、体の状態を知り、早い段階で対処することが大切です。「自覚症状がないから大丈夫」「忙しくて時間がない」と思っていますか？

腎機能検査について

現在、腎機能の低下で人工透析を受ける方が増加しています。人工透析は年間1人500万円以上の医療費がかかります。また、週に何度も透析を受けなくてはならず、生活にも影響を及ぼします。

腎機能の低下は、特定健康診査を受診して経過をみることで、早い段階で対処ができます。

また、生活習慣病とりわけ糖尿病が疑われる方は、必ず腎機能検査を確認してください。糖尿病による人工透析者が全国的に増加しており、見逃せない検査値になっています。

「eGFR」「尿たんぱく」を同時に確認！

茂原市の特定健康診査では、国が基準とした特定健康診査の検査項目に追加して腎機能検査を実施しています。

そのひとつが、「eGFR」。血液中の血清クレアチニンの値と、年齢・性別をあてはめた計算式より、「eGFR」が算出されます。

また「eGFR」の数値とあわせて、「尿たんぱく」の状態により、

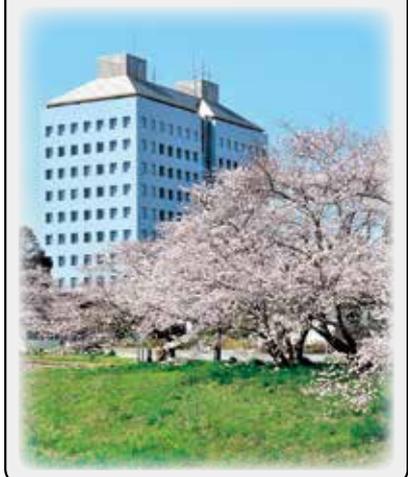
受診の必要性が明らかになります。次回の健診でぜひ確認をしてみましょう。



市役所の人事異動

部次長級の人事異動および新規採用者をお知らせします。

※()内は旧役職で担当は省略。
広域 = 長生郡市広域市町村圏組合。



◆部長級（4月1日付）

- 企画財政部長（総務部技監兼 議会議事局長） 十枝秀文 / 市民部長（教育委員会教育部長） 野島宏 / 福祉部長（福祉部次長兼子育て支援課長） 鶴岡一宏 / 経済環境部長（総務部副参事兼秘書広報課長） 山本文彦 / 都市建設部長（都市建設部次長兼土木政策担当兼土木建設課長） 石和田久幸 / 教育委員会教育部長（企画財政部次長兼企画財政担当兼企画画策課長） 中村光一 / 総務部参事兼議事事務局長（総務部次長兼総務課長） 三橋勝美 / 総務部参事兼広域派遣（総務部副参事兼広域派遣） 伊藤徹 / 総務部参事兼広域派遣（総務部副参事兼広域派遣） 御園生

俊一 / 総務部参事兼広域派遣（市民部次長兼生活課長） 片岡修

◆次長級（4月1日付）

- 総務部次長兼総務課長（市民部国保年金課長） 岩瀬裕之 / 企画財政部次長兼企画財政担当兼企画画策課長（企画財政部財政課長） 山田隆二 / 企画財政部次長兼税務担当兼市民税課長（総務部管財課長） 大森茂雄 / 市民部次長兼生活課長（企画財政部資産税課長） 岡本弘明 / 福祉部次長兼子育て支援課長（市民部市民課長） 板倉正樹 / 都市建設部次長兼土木政策担当兼土木建設課長（経済環境部商工観光課長） 大橋一夫 / 教育委員会教